

近文第十小学校跡

(ちかぶみだいじゅうしょうがっこうあと)



【所在】

鷹栖町 15 線 23 号

【指定年度】

昭和 6 3 年

【標柱建立】

平成 5 年

懐かしき知遠別小学校

明治 38 年、比布より移住した滋賀団体 17 戸の子弟のために、浄土真宗本願寺の打本敬信は説教所内に寺子屋式教育を開設した。

大正 2 年、児童数の増加にともない、農場主門脇虎蔵より五反歩の敷地の寄贈を受け、校舎 37 坪を新築、第六尋常小学校分教所として開校、大正 6 年には教室 20 坪、廊下 5 坪を増築、大正 9 年には近文第十尋常小学校として開校したのである。

大正 13 年に三村分割によって知遠別尋常小学校と改称、26 年間、この地にあったが、老朽化により改築、昭和 26 年、知遠別神社の下に校舎 130 坪、体育館 59 坪を移転新築したが、過疎化が始まり児童数が減少、昭和 36 年度をもって廃校の止むなきに至り、北斗小学校に統合された。

旧校舎跡に思い出を今に伝える檜の大木（樹齢約 120 年）が校舎前にあり、昭和 60 年「鷹栖町文化財史料」の指定となっていたが、平成 3 年 7 月 14 日、この学校卒業生によって学舎跡記念碑が校舎正面跡に建立された。